



大塚先生コラム

ぜんそくの話その3：今回はぜんそく発作をおこさないように、日頃から気を付けておくことをお話します。



気 候：季節の変わり目、台風、梅雨、春・秋は発作頻度が高いです。

場 所：ホコリっぽいところ、乾燥したところ、花粉が多いところ
(掃除はもちろん、空気清浄器や加湿器も効果あります)

感 染：かぜ・インフルエンザ等の呼吸器感染症は、発作を誘発します。

肥 満：BMI (body mass index) が高いほど喘息になりやすいといわれています。

くすり：子どもは多くありませんが、アスピリンなど薬が原因で発作が起こる人がいます。



事前に予防できるものは覚えておきましょう。もちろん発作の頻度が高いお子さんは、予防としての抗ロイコトリエン薬・吸入ステロイド薬は必要です。喘息発作がおこりやすい体質を持っている子どもは5～7人に1人といわれています。今は治療もよいので、うまく喘息とつきあっていくことが大切です。

RSウイルス感染症のお話

RS ウィルスには1歳までに半数が、2歳までにほぼ全ての幼児が1度は感染すると言われています。生涯にわたり何度も感染を繰り返しますが、身体の免疫機能によって徐々に症状は軽くなり、年長児以降では、軽い風邪で済むようになります。しかし、風邪をひいている家族の咳やくしゃみなどのしぶきが重症化しやすい乳幼児への感染源となる可能性もありますので、手洗いの他にマスクをするなどの「咳エチケット」などの日常的な予防対策をしっかり行いましょう。

院内感染対策室 副看護師長 平野



おしらせ

当院では10月7日より、インフルエンザワクチン接種を行っております。小児科のみ事前の予約が必要となります。(予約受付時間は9時から15時30分までとなっております。)

【料金】

小児 2,700円×2回(13歳以下)

成人 3,200円×1回



※地域により、助成金の金額や対象年齢が異なります。窓口でお支払いになる場合は、上記金額と異なる場合があります。

小児科外来より

寒い時期に入り、RSウイルス感染症に罹患する子どもが出てきました。RSウイルス感染症は、咳・鼻水・発熱などの風邪の症状を引き起こすウイルスですが、同じような症状での受診も増えてきています。

10月は、インフルエンザの当院小児科での発症は見られませんでした。早めのワクチン接種をおすすめします。

病児保育室はっぴいの利用状況は下記の通りです
(受入れ人数一日3人) 2019/10/01～2019/10/31

	0～1	2～3	4～6	学 童	合 計
能代市	12	9	6	3	30
山本郡	2	5	1	1	9
その他	0	0	0	0	0
合 計	14	14	7	4	39

病児保育室を利用した子どもたちが作ったハロウィンリースです。カボチャの顔を書いたりシールを貼ったりして遊びました♪



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)秋田病院



病児保育室はっぴい

〒016-0851 秋田県能代市緑町 5-22 3階ナースステーション隣り

T E L (代表) 0185-52-3271 (予約・問い合わせ) 090-8924-4253

アドレス happy@akita.jcho.go.jp ※メールでの予約対応はいたしません